春夜宴桃李園序

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この文章の山は「逆旅」「過客」の比喩、「況んや〜をや」の抑揚、そして「〜ずんば」の仮定と「何ぞ〜ん」の反語**です。

あらすじ＝唐の李白が、春の夜、桃と李（すもも）の花の咲く庭に一族の弟たちを集めて宴を開いたときの序文。天地は宿屋、月日は旅人のようなもので、人生は夢のようにはかなく、楽しめる時間はわずかしかない。昔の人が夜までともしびを手に遊んだのももっともで、まして美しい春の景色に招かれた今はなおさらだと述べる。弟たちの詩の才能をほめて自分はへりくだり、花の下で杯を交わして月に酔い、詩ができなければ金谷園の故事にならって罰の酒を飲ませようと結ぶ。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

夫（そ）れ天地（てんち）は万物（ばんぶつ）の①逆旅（げきりよ）にして、光陰（くわういん）は②百代（はくたい）の過客（くわかく）なり。而（しか）して③浮生（ふせい）は夢（ゆめ）のごとし、④歓（くわん）を為（な）すこと幾何（いくばく）ぞ。⑤古人（こじん）燭（しよく）を秉（と）りて夜（よる）遊（あそ）ぶ、良（まこと）に以（ゆゑ）有（あ）るなり。⑥況（いは）んや陽春（やうしゅん）の我（われ）を召（まね）くに煙景（えんけい）を以（もつ）てし、⑦大塊（たいくわい）の我に假（か）すに文章（ぶんしやう）を以てするをや。桃李（たうり）の芳園（はうゑん）に会（くわい）して、⑧天倫（てんりん）の楽事（らくじ）を序（じよ）す。群季（ぐんき）の俊秀（しゅんしう）は、⑨皆（みな）恵連（けいれん）たり。吾人（ごじん）の詠歌（えいか）は、⑩独（ひと）り康楽（かうらく）に慚（は）づ。幽賞（いうしやう）⑪未（いま）だ已（や）まず、高談（かうだん）⑫転（うた）た清（きよ）し。⑬瓊筵（けいえん）を開（ひら）きて以て花（はな）に坐（ざ）し、羽觴（うしやう）を飛（と）ばして月（つき）に酔（ゑ）ふ。⑭佳作（かさく）有らずんば、何（なん）ぞ雅懐（がくわい）を伸（の）べん。⑮如（も）し詩（し）成（な）らずんば、罰（ばつ）は金谷（きんこく）の酒数（しゅすう）に依（よ）らん。

語注　光陰＝月日・時間。百代＝長い長い年月。燭＝ともしび。陽春＝あたたかな春。天倫＝親子・兄弟など、肉親どうしの間がら。群季＝弟たち（ここは一族の年下の者たち）。俊秀＝才能のすぐれた者。恵連＝謝恵連（しゃけいれん）。南朝宋の詩人で、謝霊運の一族の弟。康楽＝謝霊運（しゃれいうん）。南朝宋の大詩人。康楽公の位を継いだので謝康楽と呼ばれる。幽賞＝静かに景色を味わい楽しむこと。高談＝気高い語らい。瓊筵＝玉のように美しい宴席。羽觴＝雀が羽を広げた形の杯。雅懐＝風雅な思い。金谷＝晋の石崇（せきすう）の別荘、金谷園。※「文章」は「天地が織りなす美しいあや（色とりどりの春の景色）」とする説と、「詩文（を作る力）」とする説がある。※原典には、初めの二句の終わりに「也」がある本や、「召」を「招」、「桃李」を「桃花」、「佳作」を「佳詠」、「酒数」を「酒斗数」とする本もある。お使いの教科書に合わせてください。

A　語句の意味と読み（1〜7）

（1）①「逆旅（げきりよ）」の意味を書け。

（2）②「百代（はくたい）の過客（くわかく）なり」の「過客」の読みを現代仮名遣いの平仮名に直し、意味も書け。

（3）③「浮生（ふせい）は夢（ゆめ）のごとし」の「浮生」の意味を書け。

（4）⑤「古人（こじん）燭（しよく）を秉（と）りて夜（よる）遊（あそ）ぶ、良（まこと）に以（ゆる）有（あ）るなり」の「以」の意味を書け。

（5）⑥の「煙景（えんけい）」の意味を書け。

（6）⑦の「大塊（たいくわい）」の意味を書け。

（7）⑫「転（うた）た清（きよ）し」の「転た」の意味を書け。

B　句法（8〜13）

（8）④「歓（くわん）を為（な）すこと幾何（いくばく）ぞ」の「幾何ぞ」は、ここではどのような意味を表すか。訳し方とともに書け。

（9）⑥⑦は「況（いは）んや〜をや」の形になっている。この句法の名前と意味を書け。

（10）⑪「未（いま）だ已（や）まず」の「未」は何と呼ばれる字か。読み方と意味もあわせて書け。

（11）⑭「佳作（かさく）有らずんば」の「〜ずんば」は、どのような意味を表すか。

（12）⑭「何（なん）ぞ雅懐（がくわい）を伸（の）べん」の句法の名前と意味を書け。

（13）⑮「如（も）し詩（し）成（な）らずんば」の「如」の読みと働きを書け。

C　主語・指す内容（14〜17）

(14) ⑥の「我（われ）」は誰を指すか。また、⑥で「我」を招いているのは何か。

(15) ⑨「皆（みな）恵連（けいれん）たり」の主語を、本文中から抜き出して書け。

(16) ⑩「独（ひと）り康楽（かうらく）に慚（は）づ」で、康楽に恥ずかしく思っているのは誰か。本文中の二字の語で答え、それが誰のことかも書け。

(17) ⑧「天倫（てんりん）の楽事（らくじ）」とは、ここでは誰と誰がともにする楽しみか。

D　口語訳（18〜21）

(18) ①②を含む「夫れ天地は万物の逆旅にして、光陰は百代の過客なり」を口語訳せよ。

(19) ③④を含む「而して浮生は夢のごとし、歓を為すこと幾何ぞ」を口語訳せよ。

(20) ⑥⑦「況んや陽春の我を召くに煙景を以てし、大塊の我に仮すに文章を以てするをや」を口語訳せよ。

(21) ⑭「佳作有らずんば、何ぞ雅懐を伸べん」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜25）

（22）⑤とあるが、作者は、昔の人が夜まで遊んだのはどのような理由からだと考えているか。三十字以内で書け。

（23）⑥⑦は、前の⑤とどのような関係で述べられているか。「況んや〜をや」の働きにふれて説明せよ。

（24）⑨⑩で、作者が弟たちを謝恵連に、自分を謝康楽（謝霊運）にくらべたのはなぜか。二人の関係にふれて説明せよ。

（25）⑬は前半と後半が対句になっている。前半の「花に坐し」と対になる部分を後半から抜き出し、この一文が宴のどのような様子を描いているかを説明せよ。

F　文学史・故事（26〜28）

（26）②「百代（はくたい）の過客（くわかく）なり」をふまえて書き出しを書いた、江戸時代の紀行文の作品名と作者名を書け。

（27）この文章の作者李白について、字（あざな）と、生きた時代（王朝）、後の世の呼び名を書け。

（28）⑮「如（も）し詩（し）成（な）らずんば」に続く「罰は金谷の酒数に依らん」の「金谷の酒数」とは、どのような故事にもとづくか。説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ　❶天地＝宿屋（逆旅）、月日＝旅人（過客）。「逆」は「迎える」。芭蕉『おくのほそ道』の「月日は百代の過客にして」は、この一文をふまえている。 **❷「況んや〜をや」は抑揚。**「昔の人でさえ夜まで遊んだ。まして春の景色に招かれた今は、なおさら楽しまずにいられない」という流れで答える。 **❸「佳作有らずんば、何ぞ雅懐を伸べん」＝仮定＋反語。**「如し詩成らずんば」の「如」は「もし」。③「夢のごとし」の「若＝ごとし」と読み分ける。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる